

夏休みの卒業研究

夏休み！

楽しく進める

卒業研究



夏休み直前！

これが学生最後の夏休みになる方は
卒業研究の参考文献を探し始める頃。

下準備はお済みですか？

今月号は卒論・修論を書き始めるための
研究手帖。論文執筆を終えられた大
学院生の方々の論文エピソードを裏面
でご紹介いたします！



卒論・修論を
書き始めるための研究手帖

テーマを決めて、文献を探そう



特集

そつぎょうけんきゅう

なまえ：京都大学 吉田南総合図書館 しょうようかん（愛称：逍遙館）

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel：075 (753) 6524, 6525

Fax：075 (753) 6896

Email：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP：http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/

Twitter：@yoshidasouthlib

夏季特別貸出はじめます

特別貸出期間中はいつもより長く本を借りることができます。論文執筆中の方には文献収集の絶好のチャンス！論文執筆はまだ先……という方も、論文のテーマを決めるためには、早いうちから様々な学問分野に触れ、知見をひろめておくことが肝心です。この機会を是非ご利用ください！

■実施期間

学部生：7月23日(水)～9月22日(月)

院生/教職員：7月23日(水)～9月6日(土)

*8月10日(日)～20日(水)は夏季休館です。

■返却期限日 2014年10月8日(水)

*夏季特別貸出の図書は更新できません

■冊数(平常通り)

学部生：開架 5冊 書庫 10冊

院生：開架10冊 書庫 30冊

教職員：開架10冊 書庫 対象外



グレートボックス読書会、開催者募集中

グレート・ボックスコーナーの名著を選んで、読書会をしませんか？

古典作品に挑戦しようという読書会を、吉田南総合図書館がサポートいたします。

グレート・ボックス読書会開催者募集中

募集対象・条件

- ・学内者の主催する読書会（サークル・ゼミも可）
- ・読書会参加者に制限を設けず、1・2回生も参加しやすい入門的な内容の読書会に限ります。
- ・グレート・ボックスコーナーの本を選ぶこと。

サポート内容

- ・場所(環on)の提供(ホワイトボード、プロジェクト使用可)
- ・コピー機でのレジュメ等の印刷
- ・開催に関する広報活動

実施可能時間：平日9時から20時

人数目安：各回10名程度(環onグループ学習室収容可能人数)

申込方法：開催1か月前までにメールでお問い合わせを





Follow me! "@yoshidasouthlib"



卒論・修論執筆応援キャンペーンを開催します!

卒論・修論執筆応援キャンペーン

文献集め、手伝います。

7/1(火)から8/8(金) 吉田南総合図書館1F調査・相談カウンター周辺

未知を照らすお手伝い。

<展示> 卒論・修論の書き方本
論文の書き方に関する本を調査・相談
カウンター前で展示します。コーナー
にある本は貸出もできます。

<参考> 先輩の体験談

先輩たちがどんな論文を書いているの
か見てみませんか? カウンター備付の
リストで、同じ分野の人を探すことも
できます。体験談をまとめたペーパー
もありますよ!

<相談> 先行研究の
探し方・集め方

平日9:00から17:00

図書館の調査・相談カウン
ターはあなたの味方です。
文献の探し方・集め方、
時間内ならいつでもカウン
ターにてご対応します。
お気軽にご相談ください。



<講座> ILL 15分講習会

7月14日(月) ~ 18日(金) 16:30~16:45

会場: 調査・相談カウンター前

学内にないからと入手をあきらめていた文献は
ありませんか? 図書館を通して本やコピーを取
り寄せるサービス「ILL(アイエルエル)」をマ
スターして、世界中の文献をあなたの研究に活
かしましょう!

<予約優先> 件名を「ILL講習会」とし、
氏名・所属・回生・学籍番号を記載したメールを
eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp まで!

<講座> 文献整理講習会

8月6日(水) 15:30~17:00

会場: メディアセンター南館

(203マルチメディア演習室)

論文に参考文献リストを載せるという面倒
な作業を一瞬で出来るツールがあります!
ウェブで使える文献整理ツールRefWorksをご
紹介します。

<予約優先> 件名を「文献整理講習会」とし、
氏名・所属・回生・学籍番号を記載したメールを
eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp まで!

研究手帖

今月号は「卒論・修論を書き始めるための研究手帖」。昨年度に修士論文を提出された三人の院生さんにお話を伺いました。どうぞこの夏の研究活動にお役立てください。

<凡例>

研究テーマ	名前
	所属学年

※所属と学年は取材時の2014年3月当時のものです。

T.Mさん
地球環境学舎 環境マネジメント 専攻 M2
フィジー農村集落における エコツーリズムの実践と課題 — ナタレイラ村・コロバ集落・ ナバラ村の事例調査を通じて —

論文提出直前の様子はどうでしたか？
論文の提出、発表ともに、計画していた作業が終わりそうになかったため、締め切り時間から逆算し、優先順位を付けて作業していました。

書き終わった今の感想は？良かったこと、悪かったこと、もっとこうすればよかったと思うことはありますか？

時間管理がとても甘かったです。また、論文を書くことがこれほど難しいとは思いませんでした。膨大な時間をかけて物事を深く考えたことがなかったため、とてもいい経験にはなっていないと思いますが、もう論文を書きたいとは思いません。

集めた情報や資料を一本のストーリーにする（流れを組み立てる）ことがかなり大きな意味を持ちます。

イメージ通りの修論が書けましたか？
書けなかったとしたら、それはなぜ？
大体納得のいく論文が書けましたが、最初の段階で具体的なイメージが描けていなかったため、何とも言えませんが、もっと早い段階でイメージが描けていたら、必要な調査が十分に行え、論文の完成度が高まったと思います。

書いていて一番苦労したことは？

報告書ではなく、学術的な論文として精度を高める作業に苦労しました。特に、インタビューを中心とした調査結果の表現がいまいちになってしまい、何度も先生に指摘されては修正する作業を繰り返しました。

執筆に際して、図書館がどのように役に立ったか、または役に立たなかったですか？またこのことに関して、ご意見があれば教えてください。

KUJINEの検索で「この資料も一緒に見ています」の情報が参考文献を探すのに役立ちました。個人的な反省になりますが、論文を書き始める前に、論文の書き方に関する本を読むなどして、もっと図書館を活用すればよかったです。

もう論文を書きたいとは思いません。

T.Sさん
人間・環境学研究科 共生文明学専攻 M2
1930年代のアメリカ写真史

論文提出直前の様子はどうでしたか？

提出の直前一週間の気持ちは一言で言う、「おだやか」でした。ただ論文の本提出より一週間前に、先生に提出するように言われていて、その前まではかなり根を詰めて家からほとんど出ずに作業をしていました。また、周囲が明るいとやる気がでないので、遮光カーテンをし、外から光が入らないようにして作業していました。本提出の一週間前に、先生に論文を提出した後、翌日に指摘をいただいたので、本提出までは指摘部分の修正をし、誤字脱字の確認をしていました。

書き終わった今の感想は？良かったこと、悪かったこと、もっとこうすればよかったと思うことはありますか？

先生には「あなたが思っているほど悪くはない」と言っていただけでしたが、自分としては能力不足を痛感しています。もっといろいろできたというのが感想です。時間配分を間違えなければ、もっと文献を読めたと、多くの観点から自分のテーマとしている物事を見られたはずだと思います。僕の場合、十一月まで結論にいたる道筋が詰められていなかったことが響いてしまい、論文の書きはじめがかなり遅くまでずれこみました。九月末に論文の中間発表があり、この後すぐに書き始められていれば、苦労はしなかったと思います。論文執筆のアドバイスとしては、三点あります。

① 必読書は早い段階（M1の夏休みくらい）で読むべき
同じように早い時期から自分の研究の周辺の学問について簡単にでも学んでおくといいと思う。

② 脚注、参考文献を大事に
良書についている参考文献は、良いものである可能性が高いと思う。何を読んでいるのかわからなくなったら、まずはここをチェックしてみたい。
③ 論文作成は、M2の夏休みまでに筋道をたてるのが理想
半年間調査して四ヶ月で書く。残り二ヶ月は色々な人に見てもらったり、調整をしたりする期間とすべき。

イメージ通りの修論が書けましたか？
書けなかったとしたら、それはなぜ？

形が整ったという意味で、七〇パーセントの出来とっています。ですがイメージ通りの出来ではなかったです。理由は、能力不足ともいえるし、時間のかけ方を見誤ったともいえます。本文を書く時間、先生と話を詰める時間をどれだけかけるかの計画をたてられていなかったのが原因ですね。

書いていて一番苦労したことは？

文章として仕立て上げることに苦労しました。集めた情報や資料を一本のストーリーにする（流れを組み立てる）ことがかなり大きな意味を持ちます。文章が書けないのは、論文の筋道が想像できていない、整理ができていないということなのだと思います。

執筆に際して、図書館がどのように役に立ったか、または役に立たなかったですか？またこのことに関して、ご意見があれば教えてください。

京大の蔵書量が最も役に立ったことですね。文献調査もKUJINEを使って楽に進められたかなと思います。

形が整ったという意味で、七〇パーセントの出来

「出したいくないけど、出すしかないな」という気持ち

K.Hさん
人間・環境学研究科 共生文明学専攻 M2
ヴァルター・ベンヤミンの 中絶の思考

論文提出直前の様子はどうでしたか？

一月に入ってから、先生や先輩に論文をチェックしてもらっていました。読んでもらって、論旨が飛んでいる部分の修正や誤字、脱字がないかを見てもらいました。直前になってから気づくことも多く、やはり焦りがありました。「出したいくないけど、出すしかないな」という気持ちでいました。

書き終わった今の感想は？良かったこと、悪かったこと、もっとこうすればよかったと思うことはありますか？

安心したというのが正直な感想です。この機会を最後にもう「論文を書く」ということがなくなってしまうのかと思うと、もうちょっと納得のいくものが書けるよう、頑張っておけばよかったと思います。論文を書くことで得られたものは、自分の考えを文字にして人に伝えるということが難しいものだったという気づきです。自分ではきちんと説明したつもりでも文章にして人に見てもらったら、案外伝わらないことがあって、書けないということには、結局自分がそのことに対して十分に理解できていなかったのだということに気が付きました。また、もっと早い段階で、先生や先輩に論文を見てもらうべきだったと感じました。大学院になると、(研究室にもよると思うが)中間発表のようなものがあったため、だからだとしてしまい、自主的に先生にお見せする時間も遅くなってしまい、また見せる回数も少なくなってしまうました。紀要のための読み合わせには参加したものの、他に明確な発表の機会がないことに甘えてしまったところがあります。

イメージ通りの修論が書けましたか？
書けなかったとしたら、それはなぜ？
書けてないです。やろうと思ったことの半分もできていなかったと思います。先ほども言いました通り、自主的に先生にお見せする機会を作らなければいけなかったのに、それが十分にできなかったことが影響したと思います。

書いていて一番苦労したことは？

自分の論文を客観視することがとても難しかったです。

結果、先生からいただいた指摘の理解が遅れ、論文の完成も遅れることになってしまいました。もっと早い段階で、他人に論文を読んでもらう方が絶対がいいと思います。また一度読んだ文献のメモ書きをしつかりとついでになかったので、後から該当箇所を探し直すのに苦労しました。早い段階から論文作成をした上で学習をすべきでした。

執筆に際して、図書館がどのように役に立ったか、または役に立たなかったですか？またこのことに関して、ご意見があれば教えてください。

二次文献は、自分で買っていたら大変なので、借りたりコピーしたりして利用していました。京都大学は蔵書が多く、設備面はとても充実していると思います。

自分の考えを文字にして人に伝えるということが難しいものだったという気づき

開館日程表



7月

14日(月)~18日(金)

ILL 15分講習会

<各日>16:30~16:45

28日(月)

試験期のため28日(定例休館日)も開館します。

8月

6日(水)

文献整理講習会 15:30~17:00

Book Bingo

6/2 ~ 8/8



環on Library わおん

「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室: 平日9:00~17:00

本館の定例休館日も開室

休室: 土日祝日ほか

(本館の休館日と同じ)

9:00~20:00 10:00~15:00
休館(日・祝日) 定例休館日

7

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8 8月10日~20日: 夏季休館

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				